日本のこころ 第2弾

聖なる神宮地獄神社へ。参拝。

宮地嶽神社宮司 浄見譲 × しまもと社員一同

知っているようで知らなかった神社のしきたりと参拝作法

感謝と幸福の祈り。新年に詣でる。

夏に続く宮地嶽神社第二弾です。島本食品は、毎年、島本食品の氏神様である福岡県福津市の宮地嶽神社にお伺いし、一年の感謝と一年の幸を祈願させていただいています。今回は皆様を代表して(株)島本食品代表取締役・波多江正剛と社員が、浄見譲宮司に初詣の意味や宮地嶽神社の新年を迎える準備、参拝の作法についてお聞きし、ご紹介します。

御本殿の御遷座80年目を節目に、北部九州王朝の聖地として栄えたこの地にふさわしいように、黄金の屋根に改修されました。

祖先の力をいただき元気な一年になるように願うのが、初詣です。

宮地嶽神社の創建は約1600年前、神功皇后が渡韓の折に、宮地岳の頂から大海原を臨み祭壇を設け、開運を祈願されて船出をしたのが始まりとされています。それを物語るように海に向かって真っすぐ伸びる参道。それに加え、御本殿の背後にある宮地岳から太陽が昇って玄界灘に沈んでいく立地。神功皇后がこの地を選ばれたお気持ちが伝わってくるような気がします。この地は、選ばれるべくして選ばれた土地…。人々の心を癒し、守り育む神の気配が感じられます。

こうしたパワーを持つ宮地嶽神社には毎年多くの人びとが、お正月を祝ってお参りをします。黄金の屋根を設えた御本殿を朝日が照らす様は神々しく、新年にふさわしい風景が迎えてくれます。

ではお正月にはどういう意味があるのか、浄見宮司に伺ってみました。

「ご祖先の霊である年神様がそれぞれの家にお見えになり、それをお祀りするのがお正月です。年神様をお迎えするのに鏡餅や門松を飾りますよね。それを目印に神様は降りてこられるのです」。神様を家にお迎えし、家で静かに籠ることが年末年始の過ごし方だったそうです。しかし、それが時代とともに移り変わり室町時代前期くらいから、村ができ氏神様への参拝、特に新年の初詣が重視されるようになったとか…。「一年に一回お宮に参ってご祖先様から力をいただいて、元気に暮らせるように願う…それが初詣の本来の姿です。初詣はケジメとして、日々の暮らしをリセットする瞬間でもあると思うのです」と初詣の意義についても付け加えてくださいました。

日本一の大注連縄を氏子さんと綾って新しい年を迎えます。

宮地嶽神社のお正月準備といえば、日本一と言われる大注連縄。その大き

さは長さ11m、直径26m、重さ3トンもあるそうです。毎年掛け替えるそうですが、どんなふうに準備をされているのでしょうか？「神社の近くにある広さ一反八畝の古田に、氏子さんと神職が力を合わせてうるち米ともち米を植えます。それを10月中旬に刈り取り、日干しにして藁を作ります。その藁で注連縄の周りに巻く『こも』をつくって、大きな縄を二本作るんです」と浄見宮司。かかる人手と期間は毎日50人が30日で、延べ1500人だそうです。

12月中旬の「おおしめ祭」で大注連縄を完成させます。朝から境内で大勢の氏子さんや奉仕の方々が二本の真新しい縄を持ち上げたり、転がしたりして、約2時間かけて大注連縄にしていくのです。拝殿に取り付けるのも大変な作業で大型リフトで行います。取り付けが終わるのが夕方だそうです。

「大注連縄は神職と氏子さんの一つの気持ちを練り合わせて、神様に奉納するものです。これだけ大きいものをお供えしたいという氏子さんの神様への思いは、本当に尊いものです」。

お参りは作法ではなく神に近づく気持ちの高まりが大切です。

最後に、初詣などのお参りの作法について伺ってみました。「お参りは形にとらわれなくていいんですよ。神社は親しみのある存在、生活の一部でありたいと思っていますので…。作法が間違っているから、私の所に来ないで…という神様はいらっしゃらないでしょう」。

では、どんな気持ちで臨むことが大切なのでしょうか？「日本人は、『汚れがない』『正しい気持ち』などの意味をもつ『白』が好きですよね。その背景には清潔なこと、正しいことは神に近いという考えがあり、『白』は神様の色なのです。大注連縄の向こうにある拝殿には、尊くてきれいな白い神がいらっしゃるのです。お参りの際には、その神様に近づく気持ちを大切にしてください。「鳥居をくぐる」「手水をとる」「楼門をくぐる」「拝礼をする」というけじめをつけるなかで気持ちを高め、自分も真っ白の状態にしながら進んでいくとよいでしょう」。一歩一歩進んでいった先にある拝殿で手を合わせることによって、清々しい自分となって日常に還っていくことができそうです。

「『きれいに掃除する』『身だしなみを整える』『きれいな水をコンコンと湧かす』など、神社は白く穢れのない状態を維持することを昔から綿々と繰り返してきました。今もそのことは変わりません。そうすることで必ず神様は来てくださり、神様が発散するパワーとの一体感を味わえるのです」。目に見えないパワーや癒しを絶やさない神社は、今もなお、心を整え、気をよみがえらせ、光を生む、かけがいのない場所なのです。

参拝の作法を学ぶ。

神様に近づく気持ちが大切。それに付随するのが作法です。

1 鳥居をくぐる

神様をお祀りしている境内の入口に建っているのが鳥居です。神社の入口ですから、神様のいらっしゃる所に一歩近づくという気持ちで、心を整えて通ります。中央は神様が通られるところなので、左右どちらによります。参道を歩く時も同様です。

2 手水をとる

参道を歩いていくと、手水舎があります。ここは神前に進むにために心身を清めるところで、手を洗い口をすすぎます。

【手水のとり方】

- ◎右手で柄杓をもって水を汲み、左手にかけます。
- ◎左手に柄杓を持ち替えて、右手にかけます。
- ◎再び柄杓を右手に持ち替え、左の手のひらに水を受けて、その水で口を注ぎます。
- ◎もう一度左手に水をかけます。
- ◎最後に両手で柄杓を立てて、柄杓の柄に水を流し清めます。
- ◎次の人のために、柄杓置き場に柄杓を伏せて戻します。

3 楼門をくぐる

一般住宅の玄関のようなところです。「失礼いたします」という気持ちで、ここで一礼をします。足元の境目としての敷石は踏まないようにします。

【一礼の仕方】

- ◎手のひらの親指を中指にくっつけて、手の甲を丸くします。
- ◎その手を腰骨から少し中に入った所（女性の場合はさらに内側に）に置き、深く礼をします。
- ◎目線は真下を見、指先が膝頭につくまで上体を傾けます。
- ◎背中を丸めるのではなく、お尻を後ろに引くようにします。

4 お賽銭を納める

神様への豊作の祈願と感謝としてお米を奉納していました。米のものという意味で、賽物と言いました。それが時代とともにお金となって、賽銭と言うようになりました。お供えものなので、箱に投げ入れる時は丁重な動作を心がけましょう。

5 拝礼をする

拝殿の前に立ち、お賽銭を納めた後にお参りをします。その際、賽銭箱に向かって、真ん中に立たないようにします。その後、二拝二拍手一拝を行い、お祈りをします。

【二拝二拍手一拝の仕方】

- ◎二拝　祭神に向かい二回深くお辞儀をし、神への敬意を表します。
- ◎二拍手　胸の高さで手のひらを合わせ、右手を少し下にずらして二回拍手をします。その後、指先をきちんと合わせて祈り、お願いをします。
- ◎一拝　最後に一回お辞儀をして、神前から下がりましょう。

浄見譲宮司の言葉が
ひとつひとつ心の芯に落ちていきました。
初詣や参拝のもつ意味や
それぞれの所作に込められた
思いなどへの理解を深めたことによって、
新たな気持ちでお宮様と向き合うことができそうです。
ぜひ、皆様もお参りに出かけて、
新しい年へのパワーをいただきましょう。

宮地嶽神社 宮司
（福岡県福津市宮司）
浄見 譲

1960年 福岡県福津市宮司に生まれる。
1984年 ロサンゼルスオリンピックを機に国際文化交流事務に副従事。
1994年 8年間の海外生活後帰国。
2004年 父の跡を継ぎ宮司に就任。
2013年 東京国立博物館大神社展・NY神社展、アートディレクターとして文化の橋渡しに奔走。